



代表取締役会長  
有田 昌城氏

代表取締役社長  
五十嵐 容子氏

## 株式会社アトミ

<http://www.atomi.co.jp>

本社：東京都小平市小川東町 5-13-19

TEL.042-345-1155

創立：1969年(昭和44年)

代表取締役会長：有田 昌城

代表取締役社長：五十嵐 容子



## これから薄紙を強化する、その伴はLED-UVだ

美術系やアパレル系など品質を要求される仕事を手掛け、デザインやクリエイティブの力を発揮しやすい職場環境を整えて、他社が面倒だと感じる手間を惜しまないことで、独自の地位を築いてきた株式会社アトミ。いち早く最新技術を導入してきた同社は、次のステップに最適な UV 乾燥装置としてLED-UVを選んだ。そのLED-UVを搭載したA全判4色機RMGT 940ST-4を続けざまに2台導入した。代表取締役会長の有田 昌城氏、代表取締役社長の五十嵐 容子氏に、これまでの同社の取り組みと今後の事業展開についてお話を伺った。

### 将来を考えるとやはりLED-UVだ

「2008年のdrupaでリョービ(当時)が発表したLED-UVを見た時、いずれLED-UVの時代が来ると直感した」と、いち早く最新技術を導入して新商品を開発してきた有田会長は振り返った。「その時は結局、別方式のUV乾燥方式を採用したが、乾きづらい紙を製本する際に傷や汚れがつくことによるクレームがなくなり、製本会社に大いに喜ばれた。以前抱えていた印刷機の台数から半減したが、UV効果によって生産高を維持できている」と続ける。次のステップとして「薄紙やクリアファイルを強化することにしたが、いざ着手してみると難題が出てきた。省電力UVだと紙面温度が優に100度を



LED-UVを搭載したA全判4色機RMGT 940ST-4が2台並ぶ



1台目として導入した、LED-UVと印刷品質検査装置PQS-D(I)を搭載したRMGT 940ST-4(1台目)

を超えるため、35kgくらいの薄紙だと熱でカールしてしまい、裏返した後の後刷りで大いに苦戦した。環境や省エネの観点から世の中がLED-UVへ進んでいるのは間違いないし、薄紙両面印刷を軌道に乗せるにはLED-UV導入が欠かせない」と有田会長は導入経緯を語る。

「ずっと以前から三菱の給紙性能を評価

していたが、当社には縁遠かった。その三菱がLED-UVのリョービと一緒になったことで、我々が欲しいと思う印刷機に仕上がった。薄紙は明らかに三菱の技術を継承したRMGT機が良いと感じている。実際に工場に導入されたA全判4色機940ST-4+LED-UVのフィーダーをみて、これなら大丈夫だと思った」(有田会長)。

## すぐさまLED-UVを2台体制へ

有田会長から社長職を引き継いだ五十嵐社長は「先を見据えて今がチャンスだと思えばすぐに設備投資を決断してきた。それを証明するかのように、世界初号機をよく買ってきた。すごく投資しているが、それが活かしている。そして今がある」とアトミの良さを評する。「経験上、新しい技術の機械は2台入れて1台の負担を軽減すべきと考えていた。LED-UV機の1台目が順調に立ち上がったことを確認した上で、1台目から3ヵ月後に2台目を導入した。この2台でロットが小さく、品質が要求される仕事を手掛けていく」(有田会長)。

製造部を率いる村瀬部長は、「当社は小ロットが多いので、ジョブチェンジの回数が当然多い。今までの省電力UV機だとジョブが終了してUVランプを一旦オフすると、再立ち上げに5分程度かかる。その時間的な負担が大きかった。それがLED-UVになってゼロになった」とLED-UV効果を実感している。



取締役システム管理部 部長 高橋 学氏



製造部 部長 村瀬 直之氏

## 手間がかかる仕事を極める

「当社がメインとする美術系、アパレル系などの仕事では、普通の人なら気付かないような細部を指摘されるし、本機校正を2、3回やるような厳しい仕事も多い。立ち会いと本機校正が一日中続く商売としては割が合わないが、他の会社が面倒だと感じる仕事を嫌がらずにしっかり受ける。それが競争に巻き込まれない秘訣だ」と、有田会長が長く続けてきた取り組み姿勢を語った。

近くにある美術大学から、毎年20人くらいの社外授業を受け入れているそうで、制作から後工程まで一気通貫して見学できるのが良いらしい。「入社面接したら当社で社外授業を受けた子もいた」(有田会長)ほどで、制作チームには美大出身者が多い。それを受けて五十嵐社長は「営業にも美大卒



▲ 同社が力を入れるクリアファイル、新技術を訴求する会社案内や試作品の数々



緑あふれる環境に幾何学的に席が配置された制作フロア

が何名もいるので、客先のデザイナーと対等に渡り合せて早くゴールに到達できる」。

「昔の社屋の頃に、面接に来た子が建物の外観を見ただけで面接を受けずに帰ってしまった。それはショックだった。そこで発想を切り替えて、デザイン会社に印刷機があることを当社のウリにした」(有田会長)。それを受けて五十嵐社長は「当社の外観は一見してデザイン会社ふうだ。紙や印刷物を運ぶトラックは、正面ではなく建屋の横から入る。印刷機の音は二重扉で仕切って外に漏れないので、とても静かなオフィス環境を保っている。オフィスは従業員がこまめに掃除するので汚れないし職場は綺麗、それが当たり前になっている」。5Sの標語を壁に掲げ、各職場で徹底して実行している。



5Sの掲示にもオリジナルのメッセージを載せるこだわり

こんな職場だと働きたくなる、カラフルな退社時確認表



◎ いろいろな趣向のカレンダーを制作してお客様との接点を広げる

## 印刷業のコンビニを目指す

「中小企業は小回り、スピードが命だ。規模は追わず、これからも大手がやらないことを投資先行でやる。企業が存続するには、生産性も大事だが、デザインやクリエイティブの力が欠かせない。(iPhoneを手掛ける)アップルも生産は海外でやるが、デザインや研究開発はアメリカでやっている。受けた仕事を全部ワンストップで社内でおこなせるのがうちの強みだ。『印刷業のコンビニ』を目指していく」(有田会長)。それが書かれたポスターが社内至る所に掲げられている。



今年(2019年)のキャッチフレーズが会社の至る所に掲示

小ロット、品質にこだわり、良質なサービスで、地域に根差してエリア開発を強化する。そしてもう1つのキーワードが「新たな商品開発」。LED-UVという新たな武器を手に入れて、持ち前のデザインやクリエイティブの力で、新たな商品を世に出していく。



手掛けたデザイナーの氏名を添えて、自社制作物を廊下に掲示する



製造部の皆さん